



**【まつお よしみ さん】** 自由ヶ丘 / 74歳  
●勇舞川でホタルの放流や観察などを行う「ホタルの里」の運営を行っている。ホタルが飛び交う時期にはたくさんの市民が訪れ幻想的なホタルの光を楽しんでいる。

ホタルを通じて自然の大切さを広めたい！

ホタルは、かつて日本各地の河川で観ることができ、身近な昆虫でした。千歳でも小川などでよく目にするのができましたが、最近では、宅地化や河川改修などで姿を見ることが少なくなりました。松尾さんは、昔のようにホタルが飛び交う「ホタルの里」をつくることを目指して勇舞川で環境保全活動に取り組んでいます。

松尾さんがこの活動を始めたのは今から14年前。当時の町内会長に誘われたことがきっかけです。

「当時は幼虫の飼育から始めましたが、ホタルに関する知識がなく、手探りで飼育で失敗の連続でした。今は卵の80パーセントくらいが成虫になるので、飼育方法は確立できた

のでは」と、話します。

ここ数年は、自然に羽化したホタルが観られるようになり、成果が現れ始めたとのこと。

「町内会長の遺稿集（本）にはホタルの里を続けてほしいと書かれています。これを読むたびに活動を続ける気持ちが湧いてきます」と今は亡き町内会長と築いた強い思いを話します。

「ホタルの里の目的は、ホタルの数を増やすことではなく、勇舞川をきれいにすることで地域の方や子どもたちに自然環境の大切さについて理解を深めてもらうことです。地域の小学校では、ホタルの幼虫の飼育を総合学習に取り入れてもらっています」と松尾さん。

この活動が評価され、先日、松尾さんとともにホタルを育て自然環境の大切さを学んだ小学生の皆さんが環境大臣から『子どもホタルレンジャー』の表彰を受けました。

「ホタルは体長1cmほどの小さな昆虫です。寿命も1年で、最後の1週間で成虫になり、交尾・産卵という大切な仕事をします。たくさんの方にホタルの一生を実際に目で見てもらい、命の大切さを学んでほしい」と話します。

見ごろは6月上旬から8月上旬。この時期はビニールハウスを設置し、自由にホタルの観賞ができます。

「ホタルの光のはかない美しさをたくさんの方に感じてほしいですね」とやさしい笑顔で話してくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



松尾

YOSHIMI  
MATSUO

義己

さん